

平成30年度病害虫発生予報第2号

平成30年5月1日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもち発生量は平年並	±
	イネミズゾウムシ	平年並	県全域	前年6月下旬の本田発生量は平年並 前年の予察灯における誘殺数は平年並	± ±
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	赤かび病	平年並	県全域	4月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
	さび病類	平年並	県全域	4月下旬現在、発生を認めていない(平年並)	±

・留意事項

コムギ赤かび病については、本日発表の「ムギ類赤かび病情報第2号」を参考にしてください。

ムギ類うどんこ病の発生が一部のほ場で確認されています。ほ場をよく観察し、上位葉への感染が見られる場合は防除しましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	3月の越年発病葉率はやや高い	+
	ミカンハダニ	多い	県全域	3月上旬の発生量は多い 5月の気温は高い	++
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	4月上旬の花そう基部の発病率はやや高い 4月下旬の発病葉率はやや高い 5月の降水量はほぼ平年並	++
	アブラムシ類	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の気温は高い	++
モモ	黒星病	平年並	県全域	4月下旬の発病枝率は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	±
	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	前年の発生量は少ない 4月中旬に風を伴う降雨があった 4月下旬の発病枝率はやや少ない 5月の降水量はほぼ平年並	-
	ナシヒメシクイ	やや多い (やや早い)	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+
	モモハモグリガ	平年並	県全域	4月下旬現在、被害を確認していない(平年並) フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
ブドウ	黒とう病	平年並 (早い)	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	±
	べと病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	±
	うどんこ病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬世代成虫密度はやや多い	+

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

ストロビードライフロアブルやベルコートフロアブルなどで防除しましょう。

[ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

アタックオイルやトモノールSなどで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

デランフロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ナシ・アブラムシ類]

アルバリン/スタークル顆粒水溶剤、ウララDFなどで防除しましょう。

[モモ・ナシヒメシクイ]

越冬世代成虫がウメやモモの葉に産卵し、第1世代幼虫は新梢の芯折れを引き起こします。芯折れを確認したら早めに切り取り、園外に持ち出し処分しましょう。サイアノックス水和剤やモスピラン顆粒水溶剤などで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

本日発表の「果樹カメムシ類情報第1号」や4月3日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第1号」を参考にして下さい。

・留意事項

ブドウでは、一部のほ場で黒とう病の発生を確認しており、平年に比べ早い状況です。発生を確認したら発病部位を除去するとともに、薬剤で防除しましょう。

春先の気温が高めに推移したためチャノキイロアザミウマやカイガラムシ類の防除適期が前年に比べ早くなっています。

防除適期予測日は、チャノキイロアザミウマは、中山間地に位置する稲武を除いて5月中旬、ナシマルカイガラムシは5月下旬、フジコナカイガラムシは、5月下旬から6月上旬です。各地点毎の予測日等は本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第1号」、「フジコナカイガラムシ情報第1号」「ナシマルカイガラムシ情報第1号」を参考にしてください。

なお、モモのクワシロカイガラムシの防除適期は、名古屋5月1日、蒲郡は5月3日、豊橋は5月4日、豊田と岡崎は5月5日と、4月16日発表の「モモのカイガラムシ類情報第1号」の予測日より2～4日早まっています。

今後も気温が平年に比べ高い状況が見込まれており、さらに防除適期が早まることが予想されます。ほ場での発生状況に注意し、適期に防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キャベツ	コナガ	やや多い	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の気温は高い	± +
タマネギ	べと病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	黄化葉巻病	少ない	県全域	4月下旬の発生量は少ない	—
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	アザミウマ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キュウリ (施設)	アザミウマ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

[キャベツ・コナガ]

エスマルクDFやスピノエース顆粒水和剤などで防除しましょう。収穫後は残渣を速やかにすき込み発生源を除去しましょう。

・留意事項

キュウリでは、褐斑病やアザミウマ類の発生が多いほ場があります。系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。

ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（病原：MYSV）、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（病原：TYLCV）、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミが媒介するトマト黄化病（病原：ToCV）が発生しているほ場では、次作への伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、親株床でアザミウマ類やアブラムシ類の発生に注意し、発生を認めたら防除を徹底しましょう。また、白さび病の発生があるほ場では、発病葉を早めに除去するとともに、系統の異なる農薬でローテーション散布をしましょう。

今後はアザミウマ類やハダニ類が増加する時期になります。本ほと親株床を含めた防除に努めましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/yougo.html>）、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台4月26日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率ともに50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%